

宇部工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	特別講義
科目基礎情報						
科目番号	15016		科目区分	専門 / 必修		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	機械工学科		対象学年	5		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材						
担当教員	後藤 実,徳永 敦士,外部講師					
到達目標						
①知的財産権について説明できる ②企業の研究活動について説明できる。③企業の開発活動について説明できる						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安 (可)	未到達レベルの目安		
評価項目1	知的財産権について説明できる	特許の書き方を説明できる	特許権について説明できる	特許権について説明できない		
評価項目2	3社以上の企業の研究活動を説明できる	2社以上の企業の研究活動を説明できる	企業の研究活動を説明できる	企業の研究活動を説明できない		
評価項目3	3社以上の企業の開発活動を説明できる	2社以上の企業の開発活動を説明できる	企業の開発活動を説明できる	企業の開発活動を説明できない		
学科の到達目標項目との関係						
JABEE (d)-(1) 教育目標 (D) ①						
教育方法等						
概要	この科目は企業から数名の講師を招き、講義形式で授業を行うものである。学生は受講後、報告書を提出する。講師は企業で行われている先端的な技術や実践的な技術、知的財産について講義する。					
授業の進め方・方法	企業講師を招いて、企業の実際の研究・開発活動について学ぶ。講演概要のレポートの書き方も修得する。本授業は、録画した外部講師による講演をオンデマンド配信する形態を含む。					
注意点	感染症の状況により、やむを得ず全部又は一部を遠隔授業とする場合がある。					
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	知的財産権 (1)	特許権について学ぶ		
		2週	知的財産権 (2)	特許以外の知的財産権について学ぶ		
		3週	三菱重工における研究・開発の取り組み (1)	三菱重工における研究・開発活動への取り組みを学ぶ		
		4週	三菱重工における研究・開発の取り組み (2)	三菱重工における研究・開発活動への取り組みを学ぶ		
		5週	城南電計における研究・開発への取り組み (1)	城南電計における研究・開発活動への取り組みを学ぶ		
		6週	城南電計における研究・開発への取り組み (2)	城南電計における研究・開発活動への取り組みを学ぶ		
		7週	宇部情報システムにおける研究・開発への取り組み (1)	宇部情報システムにおける研究・開発活動への取り組みを学ぶ		
		8週	宇部情報システムにおける研究・開発への取り組み (2)	宇部情報システムにおける研究・開発活動への取り組みを学ぶ		
	4thQ	9週	宇部興機における研究・開発への取り組み (1)	宇部興機における研究・開発活動への取り組みを学ぶ		
		10週	宇部興機における研究・開発への取り組み (2)	宇部興機における研究・開発活動への取り組みを学ぶ		
		11週	トクヤマにおける研究・開発への取り組み (1)	トクヤマにおける研究・開発活動への取り組みを学ぶ		
		12週	トクヤマにおける研究・開発への取り組み (2)	トクヤマにおける研究・開発活動への取り組みを学ぶ		
		13週	技術者倫理 (1)	企業の社会的責任について学ぶ		
		14週	技術者倫理 (2)	環境問題について学ぶ		
		15週				
		16週	まとめ	授業まとめと授業改善アンケートをおこなう		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	企業等における技術者・研究者等の実務を認識している。	3	
				企業人としての責任ある仕事を進めるための基本的な行動を上げることができる。	3	
				企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を判断することの重要性を認識している。	3	
				企業には社会的責任があることを認識している。	3	
				企業が国内外で他社(他者)とどのような関係性の中で活動しているか説明できる。	3	
				調査、インターンシップ、共同教育等を通して地域社会・産業界の抱える課題を説明できる。	3	
				企業活動には品質、コスト、効率、納期などの視点が重要であることを認識している。	3	
				社会人も継続的に成長していくことが求められていることを認識している。	3	

				技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要とされることを認識している。	3	
				技術者が知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践な活動を行った事例を挙げることができる。	3	
				高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを認識できる。	3	
				企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができる。	3	
				コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。	3	

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	レポート	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
知識の基本的な理解	0	0	0	0	0	100	100
思考・推論・創造への適用力	0	0	0	0	0	0	0
汎用的技能	0	0	0	0	0	0	0
態度・志向性(人間力)	0	0	0	0	0	0	0
総合的な学習経験と創造的思考力	0	0	0	0	0	0	0